Next Action

苦悩の春
BANK ART STATION

ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022

KOTO-NOBU-LOG.

桜の季節

今年も桜の季節になりました。季節の移り変わりが急激なせいか、春爛漫が実感しきれずに桜の花を目の当たりにしてます。あるいは、昨年、家の前の桜の老木が切り倒されたことで、桜を見上げることがなくなり、この時期の実感が湧かないのか、、

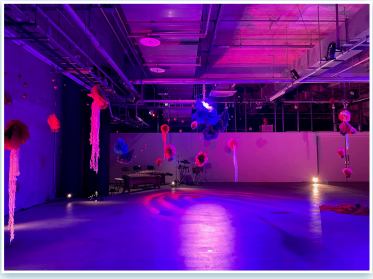
変わらないのは、暖かい日に鳥の声が賑やかに聞こえてくることです。その鳴き声をもとに何鳥が来ているのかまでは分からないけれど、その鳥たちの声を聞いていると、鳥の歌を収集して作品をつくったオリヴィエ・メシアン（1908-1992）の感性に心惹かれています。

SPACE FACTORY

現在、29日まで横浜BankART Stationで開催しているSPACE FACTORY 『苦悩の春 ～源氏物語より～』公演真っ最中です。SPACE FACTORY は、舞踊家の花柳ゆかし氏が中心となって、ジャンルの異なる芸術家が集い、互いの個性が響き合う空間を創造することを目的に1992年に発足した団体です。文学作品を基に舞踊、美術、音楽で、その劇場空間での体感機会を創ることを目的としています。

今回の作品『苦悩の春 ～源氏物語より～』は、「源氏物語」に登場する藤壺、空蝉、六条御息所、葵上という四人の女性と光源氏との愛と葛藤を描く公演で、2021年にごく限られた形で初演され、今回、新キャストによって改訂し再演されています。

舞台美術には、テキスタイルアーティストの寺村サチコ氏によるインスタレーションをメインに、山中周子氏の衣装、空間演出を加え、古典文学に造詣のない方にもアート空間として、その演出や時間を楽しみ、感じ取っていただけるよう工夫されています。



音楽においては、箏曲家で作曲家の池上眞吾氏のディレクションの下、声楽家の鳥尾匠海氏によるテノール独唱を核に、四人の女性をイメージした四名の舞踊家による踊りと物語を語るストーリーテラー、照明などを感じ取りながら、箏、胡弓、尺八、打楽器の四名の邦楽器奏者によるインプロビゼーションで伴奏しています。演奏している者としては、公演毎に、客席や踊り手、共演者の微妙な雰囲気が異なり、それによって自分自身が受ける影響や作ろうとする音楽も変わり、その空間や時間を共有している緊張感と充実感を味わうことができています。

会場となっているBankART Stationは、みなとみらい線「新高島」駅の改札を出てから、地上へ上がる途中の公共スペースを利用した空間が会場となっています。これは横浜市が推進する市内の歴史建造物、倉庫などを文化芸術に活用し、街を創っていくという「創造都市構想」の牽引プロジェクトの一環で、都市デザインと結びついた芸術文化でもあります。もちろん、駅を利用する人の声、エスカレーターの誘導チャイム音、駅に入ってくる列車の音なども聞こえてきますが、それはそれで、自分たちの行なっている作品が、そういった、ごく一般の日常と切り離されたものではないようにも感じられ、このSPACE FACTORYが創り出そうとしている目的と強く結びついているようにも思っています。

明日、いよいよ千秋楽。駅からつながる源氏物語の世界でお待ちしています。